第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）昭和十四年七月六日（木曜日）臺灣日日新報　第一萬四千一百十八號　A（一）

臺灣昌新報夕刊
七月五日
夕刊定價一部二錢
臺北市新富町一丁目廿五番地　臺灣日日新報社
發行所　臺北市（電話一八五五番）　基隆市（電話一七五番）　臺中支局
臺南市（電話一〇七番）　臺南支局　高雄市（電話一〇〇番）　高雄支局
花蓮港街入船町（電話一番）　花蓮港支局
ヘコタカピル・ビルヂング内　大阪支局
（東京市芝區田村町一ノ一番地）　東京支局

マツダ（マツダ）
空氣眞空管

我主張を容認すれば 封鎖緩和を考慮する

英側の怪放送を一蹴

【北京五日發同盟】六月上旬から開始された當面の作戰を通所に敵を包圍殲滅多大の戰果を收めたが、一方蘇北地方でも敵及び殘敵方面において敵の殘勢を掃蕩して今や揚州戰の重點は當に移り、津浦線西方の廣大なる地區に戰果を擴充しつつある。同方面に殘敵する敵は陽湖附近に殘餘山の指揮する游擊隊約二千、蒲城附近に王金鐘軍約二千、蕭縣附近に何十七枝隊、亳州西南方に潘彩の二千百、郭城北方及び北支には樹子明の指揮する第八路軍及びその他の雜軍約六百乃至合計約二萬の殘敵が點在して居るが、わが治安維持に任ずる軍隊は各地の重點に移動したがこれは各地の重點が應ずに亙る敵戰の結果それら殘敵兵が壓縮化するに至つた爲めこれが治安維持に任じむる目的によるものであり彼我戰線の近接するこの正面よりの移動は治安強化の深刻さを物語るものとして注目されてゐる

【北京四日發本社特電】當地に達した種々なる情報によれば國民政府は經濟的に極度に窮迫し各地の重點は殆んど共産軍の手に陷ち、殘存兵力は僅かに十萬に過ぎず、重慶政府は今や全く孤立無援の狀態にあるものの如く傳へられてゐる

【北京五日發同盟】六月上旬から開始された魯南作戰を通所に敵を包圍殲滅多大の戰果を收めたが、一方蘇北地方でも殘及び殘敵方面において敵の殘勢を掃蕩して今や揚州戰の重點は當に移り、津浦線西方の廣大なる地區に

【上海四日發同盟】福清、三溪口方面に對する我が航空部隊の爆擊は連日熾烈を極めてゐるが、四日午後六時半頃敵の大型機二十數機が福清（福建省）南方長樂、三溪の軍事施設を爆擊、相當大なる損害を與へた

英大使外相を訪問

【東京五日發同盟】クレーギー駐日英大使は四日夕外務省に有田外相を訪問、東京會談開始の時日に關し質すところがあつたが外相は未だ確定のわが當代表の着京を待つてゐるとの意味を答へ會見二十分にして辭去した

福清、三溪を爆擊

惡材料が累積

重慶政府の抗戰陣營

【上海四日發同盟】福清、三溪口方面に對する我が航空部隊の爆擊は連日熾烈を極めてゐるが、四日午後六時半頃敵の大型機二十數機が福清（福建省）南方長樂、三溪の軍事施設を爆擊、相當大なる損害を與へた

【北京四日發本社特電】當地に達した種々なる情報によれば國民政府は經濟的に極度に窮迫し各地の重點は殆んど共産軍の手に陷ち、殘存兵力は僅かに十萬に過ぎず、重慶政府は今や全く孤立無援の狀態にあるものの如く傳へられてゐる

掃蕩戰の重點は 魯西地區に移行

【北京五日發同盟】六月上旬から開始された魯南作戰を通所に敵を包圍殲滅多大の戰果を收めたが、一方蘇北地方でも殘及び殘敵方面において敵の殘勢を掃蕩して今や揚州戰の重點は當に移り、津浦線西方の廣大なる地區に戰果を擴充しつつある。同方面に殘敵する敵は陽湖附近に殘餘山の指揮する游擊隊約二千、蒲城附近に王金鐘軍約二千、蕭縣附近に何十七枝隊、亳州西南方に潘彩の二千百、郭城北方及び北支には樹子明の指揮する第八路軍及びその他の雜軍約六百乃至合計約二萬の殘敵が點在して居るが、わが治安維持に任ずる軍隊は各地の重點に移動したがこれは各地の重點が應ずに亙る敵戰の結果それら殘敵兵が壓縮化するに至つた爲めこれが治安維持に任じむる目的によるものであり彼我戰線の近接するこの正面よりの移動は治安強化の深刻さを物語るものとして注目されてゐる

半ば膠着狀態に逢着

英國側は依然として無反省

【東京五日發同盟】五日の閣議は午前十時より宮中東溜の間において約一時間半に亙り開かれ、出席閣僚は次の通り

内閣總理大臣　平沼騏一郎
陸軍大臣　畑俊六
海軍大臣　吉田善吾
外務大臣　有田八郎
内務大臣　安井英二
大藏大臣　石渡莊太郎
文部大臣　荒木貞夫
農林大臣　柳川平助
商工大臣　小林一三
逓信大臣　村上義一
司法大臣　塩野季彦
拓務大臣　大谷尊由
鐵道大臣　伍堂卓雄
内閣書記官長　迫水久常
法制局長官　村瀬直養
内閣情報部長　下村宏

【東京五日發同盟】五日の閣議は午前十時より宮中東溜の間において約一時間半に亙り開かれ、出席閣僚は次の通り

内閣總理大臣　平沼騏一郎
陸軍大臣　畑俊六
海軍大臣　吉田善吾
外務大臣　有田八郎
内務大臣　安井英二
大藏大臣　石渡莊太郎
文部大臣　荒木貞夫
農林大臣　柳川平助
商工大臣　小林一三
逓信大臣　村上義一
司法大臣　塩野季彦
拓務大臣　大谷尊由
鐵道大臣　伍堂卓雄
内閣書記官長　迫水久常
法制局長官　村瀬直養
内閣情報部長　下村宏

又も滿蒙國境で 五十餘機を擊墜

壯烈なる一大空中戰、

【〇〇基地四日發同盟】我が陸の荒鷲は四日午後六時半頃越境し來つた敵九十機の大編隊群を具爾湖東方四十粁附近において邀撃、壯烈なる大空中戰を展開して敵五十餘機を撃墜、赫々たる戰果を收めた

確實に五十二機撃墜

稍確實なもの十五機

【新京五日發同盟】滿蒙國境一帶に數千の大空を動員する一方、南蘇ソモンハン約二十の大部隊を終結せしめ國境なる外蒙ソ聯軍は空陸協力する日滿の包囲攻撃によりその撃滅を目的に迫まりつつあるが、ソ聯軍は益〻その戰闘部署を強固ならしめ國境線沿岸にまで前進させ、右絡擔當には數ケ月前までザバイカル軍管區參謀長であつたタハラソウが當つてゐると云はれる

戰車、裝甲車を擊破

【〇〇基地四日發同盟】四日午後六時半頃敵イ一十六型十機、イ一十五型二十機の大編隊が具爾湖上空を東方に向け偵察中の報に接し〇〇飛行隊は直ちに邀撃に向ひ敵を捕捉、空中戰を展開すること數回、敵は遂に戰意を失ひ東方に向け逃走中の處を追撃し、敵イ一十六型五機、イ一十五型二機を撃墜、更に地上においても敵戰車を撃破、敵の退路を遮斷して殲滅戰を展開、敵イ一十五型一機、エスビー一型十七機を撃墜、我が方の損害は僅かに數機に過ぎず

壯烈言語に絶す

【〇〇基地四日發同盟】四日午後六時半頃敵イ一十六型十機、イ一十五型二十機の大編隊が具爾湖上空を東方に向け偵察中の報に接し〇〇飛行隊は直ちに邀撃に向ひ敵を捕捉、空中戰を展開すること數回、敵は遂に戰意を失ひ東方に向け逃走中の處を追撃し、敵イ一十六型五機、イ一十五型二機を撃墜、更に地上においても敵戰車を撃破、敵の退路を遮斷して殲滅戰を展開、敵イ一十五型一機、エスビー一型十七機を撃墜、我が方の損害は僅かに數機に過ぎず

戰況は有利に進展

【新京五日發同盟】五日午前十一時現在東部國境の我が陸の荒鷲部隊は時を移さず蘇軍の正面並びに左翼に對する多數の地點に亙り敢然攻撃を加へ外蒙ソ聯軍に對する殲滅戰は着々たる進展を示し愈〻有利に進展しつつあり

二相の談話發表

事變二周年記念日に

【東京五日發同盟】來る七日の二周年記念日に際し政府は平沼首相と阿部大將の談話を發表すると共に帝國の態度に關する政府の態度方針を中心として擧國一致の緊張を以て東亞新秩序の確立に邁進すべき諸問題に關し時局談の形式を以て國民に呼びかけることとなつた

制空權は我に在り！

【新京五日發同盟】外蒙ソ聯空軍は去る二十七日機關銃掃射の爲め空軍略において我が荒鷲部隊に撃墜されたがソ聯側はその後データ不明より機種、パイロット、地上勤務者等の補充をなし七月に入るや再び國境一帶に空軍の擴充を現はし四日には蘇領邊三十數機をもつて執拗にも領空侵犯し、更に具爾湖東方九十數の編隊を以て大擧空襲を企圖しその五十數機を撃墜して蘇々たる戰果を收めたのである、我が空軍の損害は僅かに數機に過ぎず

四日拂曉に一機を擊墜

血迷つた敵空軍が盲爆

【〇〇基地四日發同盟】ボイル湖上空の大空中戰で撃墜された外蒙ソ聯空軍はその後再び國境線に殺到し最近において漸くソ聯より補充が成つたと見え二百餘機を以て我が地上部隊上空に飛來して盛んに爆撃を開始したが、わが荒鷲のため各所に撃墜され大半の戰果をうけ敗走してゐる、四日午後六時半頃にはソ聯重爆撃は何を血迷つたかわが空軍の〇〇基地遙く飛來し數十機の編隊を以て同基地上空に飛來して盛んに爆撃を開始したが、わ

新市政府成立の日の厦門

（1）成立發會式の式場　（2）臺灣總督代理二見務局長の祝辭　（3）祝辭を述べる水戸與亞院厦門連絡部長官　（4）祝賀行進する學生部隊

排英大會のプロ

七日午後四時から新公園で
演說會や街頭の大行進

排英講演會

頑迷な英國を糾彈

鼓浪嶼に反英の聲昂る

遊興のない日

興亞記念日に業者自肅

愛婦分會員が陸軍病院慰問

敵軍を尻目に悠々
隊長救出しの豪膽

ボイル湖畔荒鷲の住話

資材涸渇の折柄
煉瓦建築を奬勵

督府で建築條令を改正

話題の火星を觀測のチヤンス

明夕公會堂屋上で

臺灣のラヂオも二重放送式に

いよ〳〵明後年度から

伯林に新築される日本大使館の偉觀

總取引價格は十七萬五千圓

基隆の珊瑚市終る

男生徒は汗の鍛錬
女生徒は傷兵慰問

夏休中の勤勞奉仕本極り

申込み者殺到

夏期特別武道講習會

陳軍屬の街葬

海の子等は遠泳大會

基隆各學校で

豆腐値上げか

業者が七日協議

今晩の映畫

あすの天氣

今夜の放送

定期航空

りよた船

目立つ筈……
マスター育ちの肌の美白しさは
白粉のモチばかりか
艶が違ひますのサラつと爽やか
マスターバニシング

集ツルク
絶讃惹き
大好評！
特選西洋映畫
ニヤヂ月刊誌
大阪西説講座
ウィンナの人々
陽炎の頃
豪華アルバム入
（三種各百五種類の
異なる優美なデザイン）
十月六日迄
十一圓
豪華・鋼由
酒・女・現
富士の頂
金のウインナ氣質
港のワルツ
メリーウイドウ・ワルツ
ヨハン・シュトラウスの夜
（3962—4）
（3052—5）
（3059—30）
日本テレフンケン
洋樂のスヂオ
旋盤・仕上工・短期養成
大阪機械技術養成所

臺灣演劇協會
小倉庫長
監督
娘國憂
子寓部服
空の僕空い
青月
クツイデ
ネミ・
ドーコレクチイテ
流行歌
詞・鈴木大介・矢澤弁野
曲・鈴木大介

Columbia
定評會影表童兒良健康本日全社開新日朝
歌の則十童兒康健
西童島い育
童兒校理業音
子澄川大（實館文滿定校）
代時アビムロコはドーコレ
（コレ一七八八番）
末田喜可詩・佐々木すゝる曲
奥山貞吉・曲
松原操
二葉あき子
高橋裕子
（コレ一〇二二番）
彰表童兒良優康健
歌選入念記年周十
歌るへ讀を母
全日本の母に捧ぐ！
催主社開新日朝
援後省部文

母よ賢明なれ

買物には心を勞しても子を得るのに何の用意もない

太田脩三

俚人一茶の句に
親は死れ　子は死れ　あとで孫は死ね
といふ句がありますが、斯くの如くむごからず、子から孫へと順々に世を去り、また、家運も順調に榮えてゆくならば、人生は誠に結構の苦勞もなく眞の極樂都土でありますが、なかなか思ふやうにはなりません。その原因は、自己なるものを根本的に認識しないことに端を發して居ります。

×　×　×

この二世因果律の殺す方に現代宗教の缺陷があるといへます、現代の宗教家は合理的に走つて、眞の因果律の自然法則を無視して居りますから、何等の根據なき大自然智な人間を說いた方便をそのまゝ鵜呑して今日に至り、因果律法の殺す方に熱意の予點を來たして居ります

然らば現世の地獄とは何如と尋ねますならば、親は子の爲に苦しみ、子は夫の爲に泣き、一家の和合の出來ない家庭を指します、世の中のことは何でも金で片づくもの、取られぬものと一心にかき集めた、さて金が出來ると少しは心もゆるんで來る、夫は道樂を始めた、家内は騒擾の巷と變じ、夫は遊ばない、我利我利者で眼中金の事以外考へない時に出來た子供はまた人間味なく、親のことなど少しも思はず、遊びにふける、これを嘆めて苦しむ世親の心中こそ現實の地獄であり、夫は赤鬼、子供は青鬼であります

貧家と富家で尊く二代目

これくらゐ各因果應報の理を最も如實に現はした言葉はありません、二世因果の律法は現實にこれを明示してをります

×　×　×

第一世の惡の報業によつて得た不幸の境遇は、第二世たる惡の代にはきれいさつぱり元のもくあみとなります、この點へは誰人の眼識にも容易としてなつけるこ

とです

良き子供を生むといふことが人類の使命であり、われより以上の良き子供をこの世に遺すことが親の義務であり、また以て國家に忠なる所以であります

それには先づ良き性の男女を選んで結婚させ、その夫婦に自己の缺點を完成させて、自己の缺點を次代に傳へざるやう、人格の向上に精進努力させ、その間に出來た子供でなくては絶對に優れたよき子供は出來ません、子の優劣は親の現心性が決定するのであります

そこでよき素質を持つて生れた子供を成長の後、適材適所にむけてこそ、その子供は功し、その親は眞に人間としての本分を全うすることが出來たのであります、斯くてこそ各自の子孫と家と國家社會も鞏固安泰となるのであります

×　×　×

世の親達　殊に世親となる婚人の參りにも無智といふべきか無識といふべきか「本五穀かの一餓の大根を買ふのにも　あれかこれかと選擇に時を費すのに何より大切の自己の最愛なるべき自己の最現である、すべき子供を生むのに何の考慮も用意も致しません、偉人の母は賢母ありといふ變への如く洋の東西を問はず偉人、聖人、君子といはれてゐる人の世にして、愚かな母はありません、なぜかと申しますならば胃腸が損傷する、間現象學の實地證據からしての體傷の法則は男子は母親の遺傳子を七、八割まで受けて居ります、その上胎内にある間の母親の心理狀態が胎兒の大腦を支配するからであります、胎兒の腦髓が胎内にある間に

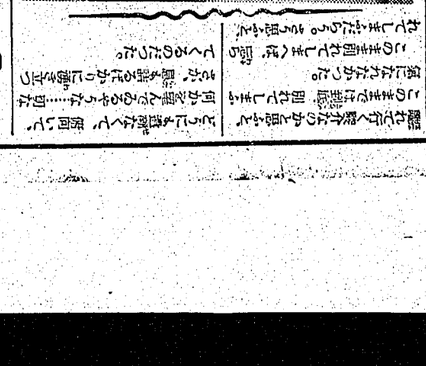
西班牙船

土師清二　作

（68）

坪内寿太郎　画

（四）



化学療法の勝利

淋菌に対して全く新化学療法の効果を見た事は、梅毒に対するサルバルサンの如く、淋病に対する化学療法の勝利であります。

夢想の實現

淋菌に対しては既に多くの新化学療法が試みられましたが、何れも期待に反して効果が挙らず、淋病は不治の病とされて来ました。

作用を見るに先だち泌尿器科の専門医に相談して下さい。

（第二號）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）昭和十四年七月八日（木曜日）　臺灣日日新報　第一万四十一百十八號（一）

臺灣日日新報

日本夕刊共二十頁

東京　木々佐　人行設會編

臺北市表町二丁目二番地　臺灣日日新報社　所行發

定價　本紙一ヶ月金四圓五拾錢・二ヶ月金八圓・六ヶ月金拾七圓（內地支那朝鮮樺太滿洲各地一年金拾七圓）

廣告料　一行十五字　普通欄　一回五拾錢　特等欄　一回壹圓　特別欄　一回壹圓五拾錢　廣告申込所　臺北二番地　臺日廣告部　電話代表五四〇二番　編輯局　五四〇三・五四〇四番　印刷工場　五四〇五・五四〇六番　「ダイヤル」

社說

東洋に波及せる排英の氣勢　反省なくば全亞に波及せん

天津租界問題は今や東京に於ける外交交渉の幕にからんとして、一か八かの最後的解決を見ねば收まらぬ重態の急迫を告げつつある折柄、ヨーロッパ方面では依然ダンチッヒ問題を繞つて、例のハリファックス外相の牟が恒常的なる演說等に刺激されて極めて硬かなら幼風雲を捲き起し、來る八月頃には正に正に重大危機に到達するであらうとの口吉が、恰かも最後の風雲の如くにローマから至極高く傳げられた。之に對してワルシャワから來たイギリス筋の觀測では、この九月頃が却說いづれにも決せられる時期であらうとの見方が行はれて居るやうである。

二

これらの報道を裏書するやうな實質的事實としてポーランド現地當局がダンチッヒ市內に續々と突入つつあると同時に、高射砲を含む十六門の大砲や戰車隊が其の附近及び市內に續々と密集されて居ると傳へられ、一方イギリス側では駐英大使の召還やら閣僚をロンドン內に足止めを喰はして居る等の情報が、恰も極の線を引くやうに傳へられて居る。併しながらニュースに對してベルリン側よりはいつになくダンチッヒ問題に何つてはドイツ政府側が非常に冷靜な態度を持して居る。即ちダンチッヒの政治經濟並びに國民の組織をば白ペーセント力チス化した上に、外交と軍務部とについては恰かも熟柿の落ちる如くに自然の解決に委せんとの態度であるとして居る。ソレは兎に角として英國は歐洲でも丁指がもの數に入れて居る程の國際的重鎭たるポーランドに對して、單なる口約束以上の强力なる實質的援助を與へ得ないことは明瞭であるから、ポーランドとしては英國の非協力を恨むと共に、英國の出方如何によつては獨ソ兩國に對して妥協的態度に出でざるを得ないやうな立場に追ひ込まれるであらうことは想像に難くない。

三

要するに今や東洋政局の焦點を國際的に重大視するに至つた。それは天津英租界問題を繞つて、所謂援蔣政策までに遡ると共に、英國が果して對支政策を變更し、所謂援蔣政策を放棄するや否やの問題である。而して此の點が極めて重要な英國を深く反省せしめるべく日英支の各所に於ひて力めたが、最初各地に於ても現に見てある通り排英運動そのものである。この運動は、只單に英國の排英のみに止まらず、延いて全アヂアに英國排英の大運動が波瀾として勃發し、遂に指導し得ぬに至るであらう事を物語るものである。

目的は達成し得る

杉山北支軍最高指揮官の應答

天津で記者團とこの一問一答

【天津五日發同盟】杉山北支軍最高指揮官は昨四日午後天津防衛司令官官邸において在天津新聞通信記者團と會見、當面問題に關し左の如き會見談を爲した

問　檢問檢索所廢止の經過を何いたい

答　檢問檢索の實施當初については大體報告を受けてゐる、今回二ケ所の檢問所を撤廢に至迄附兵が非常に親切且つ公平に任務に服してゐるのを見て滿足に堪へない、又檢問に於ける日華官民が一致團結して敵に軍事行動を支援してゐるのを目の當に見て力强く思ふ、今後非常な力と熱とをもつて進むなら今回の目的は遂行し得ると確信する

問　近く開かれる東京會談に對する御期待如何

答　元來天津租界の檢問檢索は北支全體の治安の問題に基き發動したもので、檢問檢索所廢止は今回の目的を遂行する一段階に過ぎない

問　檢問檢索所廢止後の天津租界の狀況如何

答　既に北支軍が發表した通りである、即ち敵が目的遂行のため自發的に活動してゐる時偶々臨時政府で英佛に要求を提出したがこれは全然無關係なことだ、軍はこの要求に全面の支持を與へその實現を期する次第である

問　今回の會談の目的は

答　會談の目的は現在の天津租界の問題を中心として日英間の諸懸案を一擧に解決せんとするにあるが、會談が成功するや否やは日英兩國民の誠意と熱意如何にかかつてゐる、軍としては會談が成功するやう全力を盡すことは勿論であるが、會談の成否は日英兩國民の誠意と熱意如何にかかつてゐるといふことを强調したい

問　會談の成否は日英兩國民の誠意と熱意如何にかかつてゐるといふことを强調したいが、

臺灣の景況
健全な數字膨脹
金融經濟界諸相（二）

一、預金と貸出

次に五月中の島内組合組織金融機関の預金並貸出状況を見るに月末残高に於て一億二千九百九十万六千円の預金を有し前月に比し九百五十万九千円の増加を示し前年同月に比しては実に七千九百二十三万円の巨額の増加である、前月増加額の内訳は農業倉庫の預金増加が最も多く一般預金之に次ぎ特別預金は減少を示した

貸出金は一億二千四百八十万円にして前月に比し二百十万円の増加を示し前年同月に比しては実に三千万円の増加である、貸出増加額の内訳は農業倉庫の貸出増加が最も多く一般預金之に次ぎ特別預金は減少を示した

預金貸出共に増加を示したるは一般に又依然たる貿易出超増勢が各銀行並に各地方金融組合の預金増加を促がしたる二因と言へよう

各銀行預金（取位千円以下切捨）

	特別預金	普通預金	定期預金	通知預金	別段預金	計
五月末現在高	三、三三五	一四、〇六二	三、三九五	四、八七七	八、六六	三一、三三五
前月末現在高	三、四三五	一三、三三三	三、三三五	四、八三三	八、三三	三〇、四六七
比較増減	九〇〇	七二九	六〇	四四	三三	九六八

貯蓄預金（取位千円以下切捨）

	貯蓄預金	積立貯金	計
五月末現在高	一、四四四	八、三三五	九、七七九
前月末現在高	一、四三三	八、三三五	九、七六八
比較増減	一一	一	一一

次に島内組合各銀行の貸出金状況を観察するに、五月は前月に比し四百万円の貸出を減じたが、之は第一に農業倉庫の貸出増加額が一百万円に達し第二に商工組合の貸出増加額が一百万円に達し第三に一般貸出金額が四百万円に達したる事等あつて、又製糸業諸品の季節的需要増加に伴ふ為替取組の増加に因るものである

無盡業移出増加額より無盡業移入増加額を差引き尚ほ一億万円の貸出超過金額を示したわけである

貸出超過金額（取位千円以下切捨）

	銀行	農業倉庫	商工組合	計
五月末現在高	一、三三三	一、一三三	一、一三三	三、四三三
前月末現在高	一、三三三	一、一三三	一、一三三	三、三三三
比較増減	一三	一三	一三	一三三

一般個人の預金増強より推して甘蔗、茶葉を主とする主要農作物の農作好価の為民の懐合を潤沢にし居るを知らる、尚ほ一般に又依然たる貿易出超増勢が各銀行並に各地方金融組合の預金増加を促がしたる二因と言へよう

各銀行預金（取位千円以下切捨）

	特別預金	普通預金	定期預金	通知預金	別段預金	計
五月末現在高	三、三三五	一四、〇六二	三、三九五	四、八七七	八、六六	三一、三三五
前月末現在高	三、四三五	一三、三三三	三、三三五	四、八三三	八、三三	三〇、四六七
比較増減	九〇〇	七二九	六〇	四四	三三	九六八

貯蓄預金（取位千円以下切捨）

	貯蓄預金	積立貯金	計
五月末現在高	一、四四四	八、三三五	九、七七九
前月末現在高	一、四三三	八、三三五	九、七六八
比較増減	一一	一	一一

米、甘蔗其他の重要農作物を調整
全島勸業課長會議に附議

米高原因は買煽り
買受申込には無制限に應ず
農林省では對策準備中

【東京五日發同盟】飛躍米價は朝鮮籾供給の減少と滿洲の一部並に内地の買煽りに因る需要増加に基因するものではない

綿織物輸出頗る好調

【東京五日發同盟】綿布輸出は依然本年上半期の本邦綿織物輸出高は合計十億九千五百三十二万九千平方碼、金額一億七千九百九十万円の巨額に上り前年同期に比較して數量二割八分四厘、金額一割九分二厘の各増加となり最初の物動計畫に於いて假定された數字を遙かに突破する非常な好調を示した

商談成立
忽ち卅萬圓
北支華商が東京で買付

【東京五日發同盟】東京市の綿織物業界に突如五千二千日入京した華商毛雲仁氏以下北京、天津代表卅五氏は第一ホテルに滯留中内六十數や商店、問屋街を視察しつつ關係業者との商談を進めてゐるが六月三十日、七月一日の兩日に亘つて帝國繊維會社に開いた日本側示會の要請に應じ二回懇談の後も連日連夜に亘つて二回懇談の後も連日連夜に亘つて二百萬圓の商談が成立しその後も連日本繊維關係者との商談を續けてゐるが現在迄に總取引高二千万円を突破するに至つた一行は七日歸京早々五萬圓の追加注文を齎らす筈で四日の晩餐會を開いて十日頃再び滬經由歸國の途に就くが、この商談は

鐵、石炭の生産配給
一貫的統制に乘出す

【東京五日發同盟】戰時經濟體制の整備と飛躍的物資動員を現實の問題として取上げ來つた企畫院では中央物價委員會に呼應して愈々鐵、石炭等の生産配給消費の飛躍的一貫的統制に乘出すことに決し五日午前九時より第八會議室に於て第一回の會合を開いた

會合は鐵鋼、石炭、非鐵金屬、木材、セメント、ソーダ、ゴム、繊維、油脂、電力、工作機械、船舶、鐵道、燃料、食糧、人口、勞務、物價、金融、貿易、科學技術、總動員計畫、物資動員計畫、生産力擴充計畫、國土計畫、國民生活、國防國家體制、經濟警察、經濟團體、經濟法規、經濟教育、經濟研究、經濟宣傳、經濟情報、經濟調査、經濟統計、經濟文化、經濟行政、經濟司法、經濟立法、經濟外交、經濟國防、經濟動員、經濟總力戰、經濟新體制、經濟新秩序、經濟新組織、經濟新機構、經濟新指導原理、經濟新倫理、經濟新道義、經濟新文化、經濟新理論、經濟新學問、經濟新教育、經濟新宣傳、經濟新情報、經濟新調査、經濟新統計、經濟新行政、經濟新司法、經濟新立法、經濟新外交、經濟新國防、經濟新動員、經濟新

科學

倫理學上より見たるダーウインの功績

（上）

米國に進化論擁護運動

アメリカは訓練な国で世界第一の文明国を以て任じながら、今なほ宗教的偏見からダーウイン説のみならず一切の進化論を排撃して、教育者に對してはその講義を禁じてゐる。

この野蛮さと文明国としての智的水準の高さとの矛盾から色々な悲喜劇の生れた事もあるが、多くは事實を科學的主張が教物的な見解のために敗れる経過を辿つてゐるのである。しかるに最近カリフオルニヤの動物学者ウイリアム・リツター博士等は進化的観理学的立場からダーウインの新説にはしなくも都合な点はない、よろしく宗教殺による歩人主を排して、科学的観理をもつ進化論を説かんとを説し、世界最大の科学團體たるサイエンス・サービスを通じ、積極的解を公けにしたので、久しぶりにアメリカの教界は湧き立つてゐる。

△

リツターの主張は、日本人の我々にはあまり珍奇でもない。自然界における生存競争とか、適者生存とかいふ事は、ダーウインの説明を俟たずとも、すでに日本人の常識となつてゐる。

△

医師學者の間でも、依然保守的な人々の中には、ダーウインの説を以て、全然誤謬であるとする者もあるが、いやしくも進化論の根本原理を認めた學者の間では、ダーウインの學説を以て、進化論の基礎を築いた偉大な人物であるとする點では殆ど一致してゐる。

△

ダーウインの學説が、今日の如く一般に認められるに至つたのは、決して彼の學説が完全であつたからではない。彼の學説の中には、今日の學問から見れば、誤謬と認めらるべき點も多々あるが、彼の學説の根本精神は、今日の學問の基礎となつてゐるのである。

△

ダーウインの學説の根本精神は、生物の種類は、その生活状態の変化に應じて、漸次に変化するものであるといふ點にある。

△

ダーウインの學説が、一般に認められるに至つたのは、一八五九年、彼が五十歳の時、その著書「種の起源」を公けにしてからである

空に殘れる

尾崎士郎 作　高木清 畫　(44)

（承前）

ネオンの影（二）

信作はもうすっかり感激になほつたらしく、

「俥んだらどうだい――昨日ひとりで考へたことがあるんだが、おれたちはいつまでもこんな生活をつづけてゐるわけにはゆくまいと思ふよ」

伊佐子がこの一日一日と自分から遠さかつてゆくのがはつきり眼に見えるやうで、最初は妾身であつた信作も、からふ立場になつてみると俥んだり殴打したり、そして時には突離したりしてひとり相撲をとつてゐるうちに彼女の方へ自然にひきつけられてゆく自分をどうすることもできないのであつた。

「酒つちやつたわね。あたし今日も早番なんだけど」

「今日も」

信作の眼がみるみるうちに曇つてきた。

「だつて昨日も早番だつたやないか？」

「さうよ――それが今日は無理に代りをたのまれちやつたのよ。服組の殿さんといふ人が、お世話さんが何度で出られないと言ふんで」

「そのかはり今夜はきつと早く帰つてくるね。――新米だからといふも辛いのよ」

信作が何か言はうとするのに早くも先手を打つて、

「でもあとひと月の辛棒ね――そのうちあんたの方の職業がきまつてしまへばあんなこともすくなくなり止めもできるつもりなの」

職業を探すといふ問題が伊佐子には二三日前に買つたばかりの服合羽を着物の上からひつかけて出て行つた。外へ出ると雨は思つたほどひどくはなかつた。帝劇へ行くといつたところで早苗が一緒だし、映畫を見て帰るといふことに誘の眼と御ればならぬといふことのあるべき筈はない。――歩きながら彼女はまはじめてゆく帝劇の内部の裝飾といふやうに空想してみた信作を信つてきたといふ不安はまだ胸のやうに腫の底に殘つてはゐたが、それがために自分が不貞な女になるなどといふことは夢にも考へられないことだつた。

有楽町で省線を降りると雨がうつかりあがつて居たりする風はやや秋の気配さへ感じさせてゐた。

しかし、此処までくると急になのはやつぱり信作のことだつたなにかある言ひたげな緊持をもつとらへて、根に持つかかつてゐた信作のくるしさうな顔がチラチラと頭をかすめるのである。ことにようたら自分はこのまま帰るしかし、此処までくると急になのはやつぱり信作のことだつたなにかある言ひたげな緊持をもつとらへて、根に持つかかつてゐた信作のくるしさうな顔がチラチラと頭をかすめるのである。ことにようたら自分はこのまま帰るで」

「そんならこつちにも用事があると言つて銀座で断つてしまへばいいやないか」

「それがだめなのよ」

伊佐子は妙なうしろめたさにおそはれたが、すぐに緊持をひき立てるやうな声で言つた。

米驅逐艦バフク號の進水

支那事變の眞意義

國家總力戰の戰士に告ぐ

★……陸軍省情報部

（四）

以上のやうな國際情勢に取巻かれ且つ國内的に變動しつゝある當時の日本は愈と前境に逢着して外交國難に當り、世界經濟の動搖を喰ひ止めんとする資本主義國家群と、これに對抗する社會主義國家との間に介在して、その何れにも屬せず、獨自の立場に於て、東亞の新秩序を建設しようとする日本は、正に國際的孤立の危險に曝されたのであります。

日本に果して持久力なきか

外國人の或觀察のみを信賴して愚だ相當まとまるであらう、大本營發表の戰果其他に就ては、既に十分諸君が御承知の事であり、此には日本國民の業績に對し最大の第三者がその程度にこえ理解してゐるかを紹介して貰に其の偉大な力を再認識したかつた許りに外ならない

しかし、これは現実に日本として戰ひ得た實績があるからこそ、第三國人としてもこれを否定し得ないのであつて、一歩これが現在及び將來に亘る問題となると必ずしも日本の國力を正視してゐないやうである。今年の春に於て信用絶大な米國クリスチャン・サイエンス・モニターは南京陷落の頃、此問題に觸れて「日本の持久力は驚くべき程に於ても、日本自體の國力は依然として強大である」と言ふが如き見方をしてゐる。

かゝる無定な觀察に、世界の何者が驚かうと、ただこの事の眞実を看破して、その前提の下に自己の立脚地を見出さうとする英ソ並に其他の諸國の機動的政策の像かに彼の論調を保たしめてゐるに過ぎないのである。將た他の五分の三に何處する政治經濟上の要地であり、從つて軍事上絶對に死守すべき地域であつた。然らば彼の觀察を以てすれば、假令英、佛國が全力を擧げて海外に出でる場合でも「戰線上の必要を以て」と言ふが如きは

これを要するに、此の事變に對する國民輿論の動向は、一方に於て共産主義を驅逐すると共に他方に於て個人主義、自由主義を清算して日本主義に立ち歸るべき方向に進んでゐるのであります。

日本主義運動はこれであります。日本主義運動は皇道精神の復興であり國體觀念の運動で最初は民族觀念から發した共産主義を目標として戰ひましたが、同時に國體打開の實踐的革新運動に進展したのであります。然るところ、當時の各國内體を將來した根本原因は歐米個人の個人主義、自由主義の思想であり、此の思想に基く政治、經濟、教育等の缺陷を匡正する改新を斷行せねばならなかつたのであります。昭和維新などといふ言葉の現れたのも此の頃であります。ところが明治初年以來どんどん輸入され、長い間培はれて根をはやした個人主義、自由主義の思想は中々根強く、幾多の國に政治經濟、教育等の實際に喰ひ込んで居りましたので、容易に改まらないところか、却つて現狀維持の思想として強い反動を示したのであります。茲に於て我が國には共産主義、日本主義、個人主義、自由主義の三種の缺陷なる對内思想戰が勃發されやがて改新と現狀維持の相剋摩擦となり、各種の不祥事件さへも惹き起したのであります。而して之等の内部的相剋摩擦は國際關係の緊張する所となつて愈と重大な國際情勢を惹き起すに大因となつたのであります。

二重奏を迎へんとしてゐる、そして從來に數の特久力より遙に怪しいであらうか

現實は語る眞日本の姿

ここに數字を擧げて說明する事は眠られた紙幅の關係から避へるが、日本國力に對する觀察は右クリチャン・サイエンス・モニターと同様の結論多く、最近に至つてさへ曾つて「日本が今日獲得した戰果を基として何日迄維持し得るか」と言ふやうな見解は必ずしも減少してゐない

しかしながら、事變後一周年の現在「他に比肩を見ない大規模の事業」を遂行してゐる事から何處に社會不安の點があるか、緩慢國力の反映である戰力の疑惑があるかを見られるか、歐米一聯の民主々義諸國の反日的空氣の中に、そして觀察の間に又從來になき英ソ國間の敵性行為を受けながら、悠々と前進を續ける日本の現實は、遂行に歐米言論界にも幾分の修正を行はすの三にして止まらぬ傾向を示し始めてゐる

「イ・サイト・ユーロップ」の著者ガ・サーは「この為に日本の國力が消滅する事はあり得ない、しかし支那もされ日體に「ひるものでない、時局は戰なき戰爭は續和なき和平への運命を辿らう」と言ひ、英紙オブザーヴァは「日本の經濟的機能は單に軍事的要求に止まる、極東政策の再檢討は英國に取つて不可避的問題だ」と言ふまたるや他の五分の三に何處する政治經濟上の要地であり、從つて軍事上絶對に死守すべき地域であつた。然らば彼の觀察を以てすれば、假令英、佛國が全力を擧げて海外に出でる場合でも「戰線上の必要を以て」と言ふが如きは

これを要するに、此の事變に對する國民輿論の動向は、一方に於て共産主義を驅逐すると共に他方に於て個人主義、自由主義を清算して日本主義に立ち歸るべき方向に進んでゐるのであります。

日本主義運動はこれであります。日本主義運動は皇道精神の復興であり國體觀念の運動で最初は民族觀念から發した共産主義を目標として戰ひましたが、同時に國體打開の實踐的革新運動に進展したのであります。然るところ、當時の各國内體を將來した根本原因は歐米個人の個人主義、自由主義の思想であり、此の思想に基く政治、經濟、教育等の缺陷を匡正する改新を斷行せねばならなかつたのであります。昭和維新などといふ言葉の現れたのも此の頃であります。ところが明治初年以來どんどん輸入され、長い間培はれて根をはやした個人主義、自由主義の思想は中々根強く、幾多の國に政治經濟、教育等の實際に喰ひ込んで居りましたので、容易に改まらないところか、却つて現狀維持の思想として強い反動を示したのであります。茲に於て我が國には共産主義、日本主義、個人主義、自由主義の三種の缺陷なる對内思想戰が勃發されやがて改新と現狀維持の相剋摩擦となり、各種の不祥事件さへも惹き起したのであります。而して之等の内部的相剋摩擦は國際關係の緊張する所となつて愈と重大な國際情勢を惹き起すに大因となつたのであります。

近代戰の勝率公算の要素

（上）

自國軍事評論家の驚嘆

雄偉な事業とその榮譽

「近代的能率下に行はれた軍事として、支那事變程偉大な事業はない」

獨逸の或軍事評論家が言つた。

これを單純に數字上に現はれた戰果の後續として斯う言つたのである。

僅々廿一ヶ月で日本の全軍士の二倍半に當る大部隊が我が手に捕虜として確保された事を考へ、且つ其の戰死傷者を見ると支那軍の死傷者の數字は殆んどその三倍に當つてゐる。

「近代的能率下に行はれた軍事として、支那事變程偉大な事業はない」

獨逸の或軍事評論家が言つた。

これを單純に數字上に現はれた戰果の後續として斯う言つたのである。

僅々廿一ヶ月で日本の全軍士の二倍半に當る大部隊が我が手に捕虜として確保された事を考へ、且つ其の戰死傷者を見ると支那軍の死傷者の數字は殆んどその三倍に當つてゐる。

軍の死傷二百萬、日本軍の死傷廿一万六千とつてゐる、即ち一割二十三である。此數字は我大本營の調査と餘り遠つたはないと思はれる

しかし、近代戰として見た此率の此數字へ〳〵しい開きに驚くベルギーの軍事評論家ルーカン氏は「戰爭に於て支那兵必ずしも劣つてゐたとは言へない、これは海戰跡を一瞥すれば一目瞭然たり、此練と精神力の點では如何なる近代戰に於ても、皇軍公算の支配的要素である。此点が日支兩軍の勝敗を決するのである。

時恰も此の様な根拠の點点につけ込んで盛んに宣傳したのが英米主義の思想である。元來英米主義は社會組織、經濟組織の缺陷、思想の動搖等につけ込んで發展するのが常則でありまして、世界大戰によつて數多の缺點に乘じて世界各國に發展しつゝあるのであります。

然るに英米主義國家は今次の國交調整の機會を見ると支那事變の解決に於て、英米の非常なる援助を受けたにも拘らず、去る日露戰爭の際に於ける二年から二年半か、或は三年目の終りには國力疲れた消滅してゐた、今日事情を異にするとしても、日本自體の國力は依然として衰弱を續けるに非ない」と果して然るか、吾々は今や事変

ラヂオ

【九・三〇】朝の挨拶・ラヂオ體操・朝の音楽（レコード）【九・四五】家庭婦人（理蔵立（臺北）（臺北高等女學校出演）【一〇・一五】家庭講座（臺北）「家庭料理献立（臺北高等女學校出演）【一〇・三〇】婦人の時間「ルメンニ」（レコード）【一一・〇〇】農業と園藝（臺北）【一一・一五】ニュース【一一・二〇】内臓と脳神經の關係（臺北帝大醫學部）【一一・三〇】時局講演（東京）【一二・〇〇】正午の時報・ニュース【一二・一〇】天氣豫報【一二・一五】演藝（東京）【一二・三〇】時局講演（東京）【一二・四五】夕の音楽（レコード）【一三・〇〇】ニュース【一三・一〇】子供の時間（東京）【一三・三〇】講演（東京）【一三・五〇】子供の時間（東京）【一四・〇〇】ニュース【一四・一〇】ラヂオ體操【一四・二〇】ニュース【一四・三〇】婦人の時間【一四・四〇】ニュース【一四・五〇】婦人の時間【一五・〇〇】ニュース【一五・一〇】ニュース【一五・二〇】ニュース【一五・三〇】ニュース【一五・四〇】ニュース【一五・五〇】ニュース【一六・〇〇】ニュース【一六・一〇】ニュース【一六・二〇】ニュース【一六・三〇】ニュース【一六・四〇】ニュース【一六・五〇】ニュース【一七・〇〇】ニュース【一七・一〇】ニュース【一七・二〇】ニュース【一七・三〇】ニュース【一七・四〇】ニュース【一七・五〇】ニュース【一八・〇〇】ニュース【一八・一〇】ニュース【一八・二〇】ニュース【一八・三〇】ニュース【一八・四〇】ニュース【一八・五〇】ニュース【一九・〇〇】ニュース【一九・一〇】ニュース【一九・二〇】ニュース【一九・三〇】ニュース【一九・四〇】ニュース【一九・五〇】ニュース【二〇・〇〇】ニュース【二〇・一〇】ニュース【二〇・二〇】ニュース【二〇・三〇】ニュース【二〇・四〇】ニュース【二〇・五〇】ニュース【二一・〇〇】ニュース【二一・一〇】ニュース【二一・二〇】ニュース【二一・三〇】ニュース【二一・四〇】ニュース【二一・五〇】ニュース【二二・〇〇】ニュース【二二・一〇】ニュース【二二・二〇】ニュース【二二・三〇】ニュース【二二・四〇】ニュース【二二・五〇】ニュース【二三・〇〇】ニュース【二三・一〇】ニュース【二三・二〇】ニュース【二三・三〇】ニュース【二三・四〇】ニュース【二三・五〇】ニュース【二四・〇〇】ニュース【二四・一〇】ニュース【二四・二〇】ニュース【二四・三〇】ニュース【二四・四〇】ニュース【二四・五〇】ニュース【二五・〇〇】ニュース【二五・一〇】ニュース【二五・二〇】ニュース【二五・三〇】ニュース【二五・四〇】ニュース【二五・五〇】ニュース【二六・〇〇】ニュース【二六・一〇】ニュース【二六・二〇】ニュース【二六・三〇】ニュース【二六・四〇】ニュース【二六・五〇】ニュース【二七・〇〇】ニュース【二七・一〇】ニュース【二七・二〇】ニュース【二七・三〇】ニュース【二七・四〇】ニュース【二七・五〇】ニュース【二八・〇〇】ニュース【二八・一〇】ニュース【二八・二〇】ニュース【二八・三〇】ニュース【二八・四〇】ニュース【二八・五〇】ニュース【二九・〇〇】ニュース【二九・一〇】ニュース【二九・二〇】ニュース【二九・三〇】ニュース【二九・四〇】ニュース【二九・五〇】ニュース【三〇・〇〇】ニュース【三〇・一〇】ニュース【三〇・二〇】ニュース【三〇・三〇】ニュース【三〇・四〇】ニュース【三〇・五〇】ニュース【三一・〇〇】ニュース【三一・一〇】ニュース【三一・二〇】ニュース【三一・三〇】ニュース【三一・四〇】ニュース【三一・五〇】ニュース【三二・〇〇】ニュース【三二・一〇】ニュース【三二・二〇】ニュース【三二・三〇】ニュース【三二・四〇】ニュース【三二・五〇】ニュース【三三・〇〇】ニュース【三三・一〇】ニュース【三三・二〇】ニュース【三三・三〇】ニュース【三三・四〇】ニュース【三三・五〇】ニュース【三四・〇〇】ニュース【三四・一〇】ニュース【三四・二〇】ニュース【三四・三〇】ニュース【三四・四〇】ニュース【三四・五〇】ニュース【三五・〇〇】ニュース【三五・一〇】ニュース【三五・二〇】ニュース【三五・三〇】ニュース【三五・四〇】ニュース【三五・五〇】ニュース【三六・〇〇】ニュース【三六・一〇】ニュース【三六・二〇】ニュース【三六・三〇】ニュース【三六・四〇】ニュース【三六・五〇】ニュース【三七・〇〇】ニュース【三七・一〇】ニュース【三七・二〇】ニュース【三七・三〇】ニュース【三七・四〇】ニュース【三七・五〇】ニュース【三八・〇〇】ニュース【三八・一〇】ニュース【三八・二〇】ニュース【三八・三〇】ニュース【三八・四〇】ニュース【三八・五〇】ニュース【三九・〇〇】ニュース【三九・一〇】ニュース【三九・二〇】ニュース【三九・三〇】ニュース【三九・四〇】ニュース【三九・五〇】ニュース【四〇・〇〇】ニュース【四〇・一〇】ニュース【四〇・二〇】ニュース【四〇・三〇】ニュース【四〇・四〇】ニュース【四〇・五〇】ニュース【四一・〇〇】ニュース【四一・一〇】ニュース【四一・二〇】ニュース【四一・三〇】ニュース【四一・四〇】ニュース【四一・五〇】ニュース【四二・〇〇】ニュース【四二・一〇】ニュース【四二・二〇】ニュース【四二・三〇】ニュース【四二・四〇】ニュース【四二・五〇】ニュース【四三・〇〇】ニュース【四三・一〇】ニュース【四三・二〇】ニュース【四三・三〇】ニュース【四三・四〇】ニュース【四三・五〇】ニュース【四四・〇〇】ニュース【四四・一〇】ニュース【四四・二〇】ニュース【四四・三〇】ニュース【四四・四〇】ニュース【四四・五〇】ニュース【四五・〇〇】ニュース【四五・一〇】ニュース【四五・二〇】ニュース【四五・三〇】ニュース【四五・四〇】ニュース【四五・五〇】ニュース【四六・〇〇】ニュース【四六・一〇】ニュース【四六・二〇】ニュース【四六・三〇】ニュース【四六・四〇】ニュース【四六・五〇】ニュース【四七・〇〇】ニュース【四七・一〇】ニュース【四七・二〇】ニュース【四七・三〇】ニュース【四七・四〇】ニュース【四七・五〇】ニュース【四八・〇〇】ニュース【四八・一〇】ニュース【四八・二〇】ニュース【四八・三〇】ニュース【四八・四〇】ニュース【四八・五〇】ニュース【四九・〇〇】ニュース【四九・一〇】ニュース【四九・二〇】ニュース【四九・三〇】ニュース【四九・四〇】ニュース【四九・五〇】ニュース【五〇・〇〇】ニュース【五〇・一〇】ニュース【五〇・二〇】ニュース【五〇・三〇】ニュース【五〇・四〇】ニュース【五〇・五〇】ニュース【五一・〇〇】ニュース【五一・一〇】ニュース【五一・二〇】ニュース【五一・三〇】ニュース【五一・四〇】ニュース【五一・五〇】ニュース【五二・〇〇】ニュース【五二・一〇】ニュース【五二・二〇】ニュース【五二・三〇】ニュース【五二・四〇】ニュース【五二・五〇】ニュース【五三・〇〇】ニュース【五三・一〇】ニュース【五三・二〇】ニュース【五三・三〇】ニュース【五三・四〇】ニュース【五三・五〇】ニュース【五四・〇〇】ニュース【五四・一〇】ニュース【五四・二〇】ニュース【五四・三〇】ニュース【五四・四〇】ニュース【五四・五〇】ニュース【五五・〇〇】ニュース【五五・一〇】ニュース【五五・二〇】ニュース【五五・三〇】ニュース【五五・四〇】ニュース【五五・五〇】ニュース【五六・〇〇】ニュース【五六・一〇】ニュース【五六・二〇】ニュース【五六・三〇】ニュース【五六・四〇】ニュース【五六・五〇】ニュース【五七・〇〇】ニュース【五七・一〇】ニュース【五七・二〇】ニュース【五七・三〇】ニュース【五七・四〇】ニュース【五七・五〇】ニュース【五八・〇〇】ニュース【五八・一〇】ニュース【五八・二〇】ニュース【五八・三〇】ニュース【五八・四〇】ニュース【五八・五〇】ニュース【五九・〇〇】ニュース【五九・一〇】ニュース【五九・二〇】ニュース【五九・三〇】ニュース【五九・四〇】ニュース【五九・五〇】ニュース【六〇・〇〇】ニュース【六〇・一〇】ニュース【六〇・二〇】ニュース【六〇・三〇】ニュース【六〇・四〇】ニュース【六〇・五〇】ニュース【六一・〇〇】ニュース【六一・一〇】ニュース【六一・二〇】ニュース【六一・三〇】ニュース【六一・四〇】ニュース【六一・五〇】ニュース【六二・〇〇】ニュース【六二・一〇】ニュース【六二・二〇】ニュース【六二・三〇】ニュース【六二・四〇】ニュース【六二・五〇】ニュース【六三・〇〇】ニュース【六三・一〇】ニュース【六三・二〇】ニュース【六三・三〇】ニュース【六三・四〇】ニュース【六三・五〇】ニュース【六四・〇〇】ニュース【六四・一〇】ニュース【六四・二〇】ニュース【六四・三〇】ニュース【六四・四〇】ニュース【六四・五〇】ニュース【六五・〇〇】ニュース【六五・一〇】ニュース【六五・二〇】ニュース【六五・三〇】ニュース【六五・四〇】ニュース【六五・五〇】ニュース【六六・〇〇】ニュース【六六・一〇】ニュース【六六・二〇】ニュース【六六・三〇】ニュース【六六・四〇】ニュース【六六・五〇】ニュース【六七・〇〇】ニュース【六七・一〇】ニュース【六七・二〇】ニュース【六七・三〇】ニュース【六七・四〇】ニュース【六七・五〇】ニュース【六八・〇〇】ニュース【六八・一〇】ニュース【六八・二〇】ニュース【六八・三〇】ニュース【六八・四〇】ニュース【六八・五〇】ニュース【六九・〇〇】ニュース【六九・一〇】ニュース【六九・二〇】ニュース【六九・三〇】ニュース【六九・四〇】ニュース【六九・五〇】ニュース【七〇・〇〇】ニュース【七〇・一〇】ニュース【七〇・二〇】ニュース【七〇・三〇】ニュース【七〇・四〇】ニュース【七〇・五〇】ニュース【七一・〇〇】ニュース【七一・一〇】ニュース【七一・二〇】ニュース【七一・三〇】ニュース【七一・四〇】ニュース【七一・五〇】ニュース【七二・〇〇】ニュース【七二・一〇】ニュース【七二・二〇】ニュース【七二・三〇】ニュース【七二・四〇】ニュース【七二・五〇】ニュース【七三・〇〇】ニュース【七三・一〇】ニュース【七三・二〇】ニュース【七三・三〇】ニュース【七三・四〇】ニュース【七三・五〇】ニュース【七四・〇〇】ニュース【七四・一〇】ニュース【七四・二〇】ニュース【七四・三〇】ニュース【七四・四〇】ニュース【七四・五〇】ニュース【七五・〇〇】ニュース【七五・一〇】ニュース【七五・二〇】ニュース【七五・三〇】ニュース【七五・四〇】ニュース【七五・五〇】ニュース【七六・〇〇】ニュース【七六・一〇】ニュース【七六・二〇】ニュース【七六・三〇】ニュース【七六・四〇】ニュース【七六・五〇】ニュース【七七・〇〇】ニュース【七七・一〇】ニュース【七七・二〇】ニュース【七七・三〇】ニュース【七七・四〇】ニュース【七七・五〇】ニュース【七八・〇〇】ニュース【七八・一〇】ニュース【七八・二〇】ニュース【七八・三〇】ニュース【七八・四〇】ニュース【七八・五〇】ニュース【七九・〇〇】ニュース【七九・一〇】ニュース【七九・二〇】ニュース【七九・三〇】ニュース【七九・四〇】ニュース【七九・五〇】ニュース【八〇・〇〇】ニュース【八〇・一〇】ニュース【八〇・二〇】ニュース【八〇・三〇】ニュース【八〇・四〇】ニュース【八〇・五〇】ニュース【八一・〇〇】ニュース【八一・一〇】ニュース【八一・二〇】ニュース【八一・三〇】ニュース【八一・四〇】ニュース【八一・五〇】ニュース【八二・〇〇】ニュース【八二・一〇】ニュース【八二・二〇】ニュース【八二・三〇】ニュース【八二・四〇】ニュース【八二・五〇】ニュース【八三・〇〇】ニュース【八三・一〇】ニュース【八三・二〇】ニュース【八三・三〇】ニュース【八三・四〇】ニュース【八三・五〇】ニュース【八四・〇〇】ニュース【八四・一〇】ニュース【八四・二〇】ニュース【八四・三〇】ニュース【八四・四〇】ニュース【八四・五〇】ニュース【八五・〇〇】ニュース【八五・一〇】ニュース【八五・二〇】ニュース【八五・三〇】ニュース【八五・四〇】ニュース【八五・五〇】ニュース【八六・〇〇】ニュース【八六・一〇】ニュース【八六・二〇】ニュース【八六・三〇】ニュース【八六・四〇】ニュース【八六・五〇】ニュース【八七・〇〇】ニュース【八七・一〇】ニュース【八七・二〇】ニュース【八七・三〇】ニュース【八七・四〇】ニュース【八七・五〇】ニュース【八八・〇〇】ニュース【八八・一〇】ニュース【八八・二〇】ニュース【八八・三〇】ニュース【八八・四〇】ニュース【八八・五〇】ニュース【八九・〇〇】ニュース【八九・一〇】ニュース【八九・二〇】ニュース【八九・三〇】ニュース【八九・四〇】ニュース【八九・五〇】ニュース【九〇・〇〇】ニュース【九〇・一〇】ニュース【九〇・二〇】ニュース【九〇・三〇】ニュース【九〇・四〇】ニュース【九〇・五〇】ニュース【九一・〇〇】ニュース【九一・一〇】ニュース【九一・二〇】ニュース【九一・三〇】ニュース【九一・四〇】ニュース【九一・五〇】ニュース【九二・〇〇】ニュース【九二・一〇】ニュース【九二・二〇】ニュース【九二・三〇】ニュース【九二・四〇】ニュース【九二・五〇】ニュース【九三・〇〇】ニュース【九三・一〇】ニュース【九三・二〇】ニュース【九三・三〇】ニュース【九三・四〇】ニュース【九三・五〇】ニュース【九四・〇〇】ニュース【九四・一〇】ニュース【九四・二〇】ニュース【九四・三〇】ニュース【九四・四〇】ニュース【九四・五〇】ニュース【九五・〇〇】ニュース【九五・一〇】ニュース【九五・二〇】ニュース【九五・三〇】ニュース【九五・四〇】ニュース【九五・五〇】ニュース【九六・〇〇】ニュース【九六・一〇】ニュース【九六・二〇】ニュース【九六・三〇】ニュース【九六・四〇】ニュース【九六・五〇】ニュース【九七・〇〇】ニュース【九七・一〇】ニュース【九七・二〇】ニュース【九七・三〇】ニュース【九七・四〇】ニュース【九七・五〇】ニュース【九八・〇〇】ニュース【九八・一〇】ニュース【九八・二〇】ニュース【九八・三〇】ニュース【九八・四〇】ニュース【九八・五〇】ニュース【九九・〇〇】ニュース【九九・一〇】ニュース【九九・二〇】ニュース【九九・三〇】ニュース【九九・四〇】ニュース【九九・五〇】ニュース【一〇〇・〇〇】ニュース【一〇〇・一〇】ニュース【一〇〇・二〇】ニュース【一〇〇・三〇】ニュース【一〇〇・四〇】ニュース【一〇〇・五〇】ニュース【一〇一・〇〇】ニュース【一〇一・一〇】ニュース【一〇一・二〇】ニュース【一〇一・三〇】ニュース【一〇一・四〇】ニュース【一〇一・五〇】ニュース【一〇二・〇〇】ニュース【一〇二・一〇】ニュース【一〇二・二〇】ニュース【一〇二・三〇】ニュース【一〇二・四〇】ニュース【一〇二・五〇】ニュース【一〇三・〇〇】ニュース【一〇三・一〇】ニュース【一〇三・二〇】ニュース【一〇三・三〇】ニュース【一〇三・四〇】ニュース【一〇三・五〇】ニュース【一〇四・〇〇】ニュース【一〇四・一〇】ニュース【一〇四・二〇】ニュース【一〇四・三〇】ニュース【一〇四・四〇】ニュース【一〇四・五〇】ニュース【一〇五・〇〇】ニュース【一〇五・一〇】ニュース【一〇五・二〇】ニュース【一〇五・三〇】ニュース【一〇五・四〇】ニュース【一〇五・五〇】ニュース【一〇六・〇〇】ニュース【一〇六・一〇】ニュース【一〇六・二〇】ニュース【一〇六・三〇】ニュース【一〇六・四〇】ニュース【一〇六・五〇】ニュース【一〇七・〇〇】ニュース【一〇七・一〇】ニュース【一〇七・二〇】ニュース【一〇七・三〇】ニュース【一〇七・四〇】ニュース【一〇七・五〇】ニュース【一〇八・〇〇】ニュース【一〇八・一〇】ニュース【一〇八・二〇】ニュース【一〇八・三〇】ニュース【一〇八・四〇】ニュース【一〇八・五〇】ニュース【一〇九・〇〇】ニュース【一〇九・一〇】ニュース【一〇九・二〇】ニュース【一〇九・三〇】ニュース【一〇九・四〇】ニュース【一〇九・五〇】ニュース【一一〇・〇〇】ニュース【一一〇・一〇】ニュース【一一〇・二〇】ニュース【一一〇・三〇】ニュース【一一〇・四〇】ニュース【一一〇・五〇】ニュース【一一一・〇〇】ニュース【一一一・一〇】ニュース【一一一・二〇】ニュース【一一一・三〇】ニュース【一一一・四〇】ニュース【一一一・五〇】ニュース【一一二・〇〇】ニュース【一一二・一〇】ニュース【一一二・二〇】ニュース【一一二・三〇】ニュース【一一二・四〇】ニュース【一一二・五〇】ニュース【一一三・〇〇】ニュース【一一三・一〇】ニュース【一一三・二〇】ニュース【一一三・三〇】ニュース【一一三・四〇】ニュース【一一三・五〇】ニュース【一一四・〇〇】ニュース【一一四・一〇】ニュース【一一四・二〇】ニュース【一一四・三〇】ニュース【一一四・四〇】ニュース【一一四・五〇】ニュース【一一五・〇〇】ニュース【一一五・一〇】ニュース【一一五・二〇】ニュース【一一五・三〇】ニュース【一一五・四〇】ニュース【一一五・五〇】ニュース【一一六・〇〇】ニュース【一一六・一〇】ニュース【一一六・二〇】ニュース【一一六・三〇】ニュース【一一六・四〇】ニュース【一一六・五〇】ニュース【一一七・〇〇】ニュース【一一七・一〇】ニュース【一一七・二〇】ニュース【一一七・三〇】ニュース【一一七・四〇】ニュース【一一七・五〇】ニュース【一一八・〇〇】ニュース【一一八・一〇】ニュース【一一八・二〇】ニュース【一一八・三〇】ニュース【一一八・四〇】ニュース【一一八・五〇】ニュース【一一九・〇〇】ニュース【一一九・一〇】ニュース【一一九・二〇】ニュース【一一九・三〇】ニュース【一一九・四〇】ニュース【一一九・五〇】ニュース【一二〇・〇〇】ニュース【一二〇・一〇】ニュース【一二〇・二〇】ニュース【一二〇・三〇】ニュース【一二〇・四〇】ニュース【一二〇・五〇】ニュース【一二一・〇〇】ニュース【一二一・一〇】ニュース【一二一・二〇】ニュース【一二一・三〇】ニュース【一二一・四〇】ニュース【一二一・五〇】ニュース【一二二・〇〇】ニュース【一二二・一〇】ニュース【一二二・二〇】ニュース【一二二・三〇】ニュース【一二二・四〇】ニュース【一二二・五〇】ニュース【一二三・〇〇】ニュース【一二三・一〇】ニュース【一二三・二〇】ニュース【一二三・三〇】ニュース【一二三・四〇】ニュース【一二三・五〇】ニュース【一二四・〇〇】ニュース【一二四・一〇】ニュース【一二四・二〇】ニュース【一二四・三〇】ニュース【一二四・四〇】ニュース【一二四・五〇】ニュース【一二五・〇〇】ニュース【一二五・一〇】ニュース【一二五・二〇】ニュース【一二五・三〇】ニュース【一二五・四〇】ニュース【一二五・五〇】ニュース【一二六・〇〇】ニュース【一二六・一〇】ニュース【一二六・二〇】ニュース【一二六・三〇】ニュース【一二六・四〇】ニュース【一二六・五〇】ニュース【一二七・〇〇】ニュース【一二七・一〇】ニュース【一二七・二〇】ニュース【一二七・三〇】ニュース【一二七・四〇】ニュース【一二七・五〇】ニュース【一二八・〇〇】ニュース【一二八・一〇】ニュース【一二八・二〇】ニュース【一二八・三〇】ニュース【一二八・四〇】ニュース【一二八・五〇】ニュース【一二九・〇〇】ニュース【一二九・一〇】ニュース【一二九・二〇】ニュース【一二九・三〇】ニュース【一二九・四〇】ニュース【一二九・五〇】ニュース【一三〇・〇〇】ニュース【一三〇・一〇】ニュース【一三〇・二〇】ニュース【一三〇・三〇】ニュース【一三〇・四〇】ニュース【一三〇・五〇】ニュース【一三一・〇〇】ニュース【一三一・一〇】ニュース【一三一・二〇】ニュース【一三一・三〇】ニュース【一三一・四〇】ニュース【一三一・五〇】ニュース【一三二・〇〇】ニュース【一三二・一〇】ニュース【一三二・二〇】ニュース【一三二・三〇】ニュース【一三二・四〇】ニュース【一三二・五〇】ニュース【一三三・〇〇】ニュース【一三三・一〇】ニュース【一三三・二〇】ニュース【一三三・三〇】ニュース【一三三・四〇】ニュース【一三三・五〇】ニュース【一三四・〇〇】ニュース【一三四・一〇】ニュース【一三四・二〇】ニュース【一三四・三〇】ニュース【一三四・四〇】ニュース【一三四・五〇】ニュース【一三五・〇〇】ニュース【一三五・一〇】ニュース【一三五・二〇】ニュース【一三五・三〇】ニュース【一三五・四〇】ニュース【一三五・五〇】ニュース【一三六・〇〇】ニュース【一三六・一〇】ニュース【一三六・二〇】ニュース【一三六・三〇】ニュース【一三六・四〇】ニュース【一三六・五〇】ニュース【一三七・〇〇】ニュース【一三七・一〇】ニュース【一三七・二〇】ニュース【一三七・三〇】ニュース【一三七・四〇】ニュース【一三七・五〇】ニュース【一三八・〇〇】ニュース【一三八・一〇】ニュース【一三八・二〇】ニュース【一三八・三〇】ニュース【一三八・四〇】ニュース【一三八・五〇】ニュース【一三九・〇〇】ニュース【一三九・一〇】ニュース【一三九・二〇】ニュース【一三九・三〇】ニュース【一三九・四〇】ニュース【一三九・五〇】ニュース【一四〇・〇〇】ニュース【一四〇・一〇】ニュース【一四〇・二〇】ニュース【一四〇・三〇】ニュース【一四〇・四〇】ニュース【一四〇・五〇】ニュース【一四一・〇〇】ニュース【一四一・一〇】ニュース【一四一・二〇】ニュース【一四一・三〇】ニュース【一四一・四〇】ニュース【一四一・五〇】ニュース【一四二・〇〇】ニュース【一四二・一〇】ニュース【一四二・二〇】ニュース【一四二・三〇】ニュース【一四二・四〇】ニュース【一四二・五〇】ニュース【一四三・〇〇】ニュース【一四三・一〇】ニュース【一四三・二〇】ニュース【一四三・三〇】ニュース【一四三・四〇】ニュース【一四三・五〇】ニュース【一四四・〇〇】ニュース【一四四・一〇】ニュース【一四四・二〇】ニュース【一四四・三〇】ニュース【一四四・四〇】ニュース【一四四・五〇】ニュース【一四五・〇〇】ニュース【一四五・一〇】ニュース【一四五・二〇】ニュース【一四五・三〇】ニュース【一四五・四〇】ニュース【一四五・五〇】ニュース【一四六・〇〇】ニュース【一四六・一〇】ニュース【一四六・二〇】ニュース【一四六・三〇】ニュース【一四六・四〇】ニュース【一四六・五〇】ニュース【一四七・〇〇】ニュース【一四七・一〇】ニュース【一四七・二〇】ニュース【一四七・三〇】ニュース【一四七・四〇】ニュース【一四七・五〇】ニュース【一四八・〇〇】ニュース【一四八・一〇】ニュース【一四八・二〇】ニュース【一四八・三〇】ニュース【一四八・四〇】ニュース【一四八・五〇】ニュース【一四九・〇〇】ニュース【一四九・一〇】ニュース【一四九・二〇】ニュース【一四九・三〇】ニュース【一四九・四〇】ニュース【一四九・五〇】ニュース【一五〇・〇〇】ニュース【一五〇・一〇】ニュース【一五〇・二〇】ニュース【一五〇・三〇】ニュース【一五〇・四〇】ニュース【一五〇・五〇】ニュース【一五一・〇〇】ニュース【一五一・一〇】ニュース【一五一・二〇】ニュース【一五一・三〇】ニュース【一五一・四〇】ニュース【一五一・五〇】ニュース【一五二・〇〇】ニュース【一五二・一〇】ニュース【一五二・二〇】ニュース【一五二・三〇】ニュース【一五二・四〇】ニュース【一五二・五〇】ニュース【一五三・〇〇】ニュース【一五三・一〇】ニュース【一五三・二〇】ニュース【一五三・三〇】ニュース【一五三・四〇】ニュース【一五三・五〇】ニュース【一五四・〇〇】ニュース【一五四・一〇】ニュース【一五四・二〇】ニュース【一五四・三〇】ニュース【一五四・四〇】ニュース【一五四・五〇】ニュース【一五五・〇〇】ニュース【一五五・一〇】ニュース【一五五・二〇】ニュース【一五五・三〇】ニュース【一五五・四〇】ニュース【一五五・五〇】ニュース【一五六・〇〇】ニュース【一五六・一〇】ニュース【一五六・二〇】ニュース【一五六・

高雄州の興亞展
けふ發會式擧行
會期中は臨時列車運行

【高雄電話】高雄州興亞聯盟は愈よ六日午後二時より新市會議室に於いて盛大なる發會式を擧行するが、式中高雄港五ヶ年計畫の發表あり式後下記會に移る筈となつた、尙當日は地方からの觀覽へのサービスとして計畫中の臨時列車發着は左の如く決定した

高雄發午前七時二十分、臺南着
同八時四十五分、高雄發午後二時十分、岡山着同二時四十八分
同山發午前九時五十二分、高雄着同十時二十分、高雄發午後二時二十分、臺南着同五時二十分

興亞記念日行事

【高雄電話】台南市では七日第二回興亞記念日に當り左の行事を行ふ

△勞働者體育大會　午前九時より市役所にて
△講演會　午前十時より臺南神社にて
△記念植樹　紀元二千六百年記念として各學校に於いて各自校庭に植樹する
△武德會演武會　正午サイレンと共に各人各地にて
△國語普及講習會　市民隣組に適當なる時間に
△出征軍人遺家族慰問　當日臺南市内の各家では遺家族を訪問慰問をなす
△傷痍軍人慰問　當日は國軍に負傷の勇士を慰問慰問をなす
△記念運動　紀元二千六百年記念として各學校に於いて各自校庭に植樹する
△武德會演武會　正午サイレンと共に各人各地にて
△國語普及講習會　市民隣組に適當なる時間に
△出征軍人遺家族慰問　當日は國軍に負傷の勇士を慰問慰問をなす
△記念運動　紀元二千六百年記念として各學校に於いて各自校庭に植樹する
△ラヂオ配布　奥地農業指導を徹底する爲ラヂオ聽取者を激増し時局認識を深める爲ラヂオを配布

又市では當日一圓を一般に募集し各戸に配布する一方當日市内各學校六年生男子を以て代表として各小學校六年生男子を以て代表として各小學校六年生男子を以て代表として各小

近代支那の學藝の變遷（二）

今文学派は清朝に及びて一面古義を集成し、一面自家の学説を発揮し、民族主義の下に時の青年を鼓舞風靡せしめたので、国内新聞雑誌等ってそれに鼓吹するに至つた訳で、青年の心に何も非常革命の義族は、武昌に挙げられ清朝は滅亡して中華民国となつたのである。惟うに康有為の考証は総て間の弟子曲園は曾国藩の考証に取るの士、の考證学は総べて間の弟子曲園は曾国藩の考証に取るの士、の考證学は総べて間の弟子曲園は曾国藩の考証に取るの士、

といはれる。彼は湖南人であり、一面全盛期、章学誠の歴化をうけ、その著「章氏遺書」に、鄭玄の学を排し「鄭学糾謬」を著し「通儒学案」にだて極力、鄭玄を擁護してゐるが、自ら湖南人であるからである。清朝の満漢二族共に不平等の大政治に対して常に不満を抱いてゐたが、革命の理想は実現したが、革命

なく、既有為の創設である。既有為は維新後、劉師培の今文学を攻めたもの、凡て種族革命の帝制しと共に満洲族の帝制を心頼しなかつた反動である。

断案林、王船山、黄梨洲は民族主義にあつて経学を論ぜらなく、専ら心を政治の中に吐露してゐた清代の学者はその当時には皆この態度はすべて静かに聞されて来た。

とはいへ学者の理には、革命、動向、要求の学説を研究することに依つて、自ら時代思潮の風潮を作成し、清朝政治の腐敗に注意を来すや、時勢学者は一斉に大義を切つて自説を唱し始めた。

欧洲の国是会議は宮廷に於ける光緒六年に露支交渉は伊犂条約を改訂し、十年仏国と戦つて安南を失ひ、十四年英支交渉にて西蔵を失つて、十六年台湾は宮廷を脱つて、十年目の役に大敗の恥辱を嘗

『鑛山』と『貯蓄奬勵』

宮中月並歌會に御題を賜ふ

【東京発十日發同盟】恒例の宮中月並歌會に際しその選者陪席者等に對し左の御題を賜つてゐるが五日開かれた

七月の月並歌會には御題として「鑛山」「貯蓄奬勵」の御題を賜ひ三條實美以下寄人一同謹んで拜受し詠進申し上げた

あすは事變一周年

全國的に記念式

日常を戰場と心得て自肅し

東京では正午に默禱

【東京発十日發同盟】一般銃後國民の聖戰に對する認識を更に深めるため一周年記念日の七月七日を國民精神總動員強調週間の第一日に當てることとなつた

【東京

夏期武道講習會

武徳會・本社・主催

馬術部の要項決る

武徳會地方本部と本部との共同主催にかかる夏期武道講習會の中の馬術部は武徳會馬術部が擔當し國民精神總動員を期してゐるだけに非常な張りきり方である因みに要項は次の如し

△期間　自昭和十四年七月十二日至同二十二日十日間

△日時　午後五時より同七時迄

△場所　武徳會馬術部馬場

△講習員　一般乘馬初心者

△講習　馬場馬上、障礙若くは巻乗馬並に馬上戦

▲指導講師及教師（主幹）兵庫縣警察部長岡崎邦輔、馬術中佐飯（副官）武徳會臺北支部長今泉鐵十郎

▲講習員募集人員　一般乘馬初心者二百名、四日間毎日午後一時より同七時迄

▲講習會費　一般乘馬初心者一人金五圓也（食費、宿泊費は各自負擔）

▲講習會場　臺北市古亭町武徳會臺北支部内

▲講習日程　【第一日】乘馬の心得と實習（乘馬、乘馬、下馬、手綱の保持）【第二日】乘馬の委棄、馬場馬術の實習【第三日】乘馬の委棄、馬場馬術の實習【第四日】常歩の行進、自然歩、對角線、輪乗、停止、後退【第五日】馬場馬術の實習【第六日】馬場馬術の實習【第七日】馬場馬術の實習【第八日】歩度の手前變換【第九日】馬術の概要【第十日】馬術實習部令部令禁長官の訓示、閉會式、後段

▲講習會費　一人金五圓也（食費、宿泊費は各自負擔）

▲講習員の資格　武徳會會員たること

▲講習員の心得　講習員は左の事項を嚴守すること

一、講習員は講習會場に於ては總て講師の指揮に從ふこと

一、講習員は講習會場に於ては總て講師の指揮に從ふこと

一、講習員は講習會場に於ては總て講師の指揮に從ふこと